

# あなたも 「新・やまがた農業人」



# 「新・やまがた



## 川井 大輔さん

- 【出身地】静岡県
- 【就農前の職業】自営（電気工事士）
- 【就農年度】平成26年度  
（H24年4月から独立就農者  
育成研修で2年間研修）
- 【経営概要】水稻（もち米と飼料用米が中心）2ha、  
そば6ha、養鶏 約400羽

## 東日本大震災で就農を決断

市民農園の野菜づくりで農業に興味を持った私は、次第に農業を2番目の職業候補として考えるようになりました。

妻が山形県出身ということもあって、平成23年1月に東京で開催された「新・農業人フェア」で、やまがた農業支援センターと西川町のブースを訪問。一旦、就農に心が傾いたものの、子供が3人いる境遇を考えると不安があり、諦めかけていました。

そんな矢先、東日本大震災が発生。被災地支援に行った私は、本業の電気工事よりも、水や食料がずっと重要な実態を目の当たりにして、食料を生産する農業に就くことを決断しました。

経営の中心をなしている養鶏は、ちょっとしたことで卵を産まなくなったり、時には死んでしまったりと、生き物ならではの難しさがありますが、3年後を目途に500～600羽まで規模拡大したいと考えています。

地元JAの方の紹介で取得できた鶏舎は月山を望む高台にあり、ここでの農作業は、何よりも生きがいを感じさせてくれます。

## 〈これから就農を目指す人へのアドバイス〉

どんな農業をするかは、幅広く見て回ってから決めたほうが良いと思います。一度取り掛かると後戻りは難しいからです。また、就農研修仲間と交流を続けると、遊休機械の情報が入ったりして有益です。



## 今田 奈穂さん

- 【出身地】三重県
- 【就農前の職業】会社員
- 【就農年度】平成23年度  
（H24年度から新規就農定着  
サポート事業を活用中）
- 【経営概要】フキノトウ20a、たらの芽10a、  
なす5a、アスパラガス10a、  
ねぎ20a

# 農業人」紹介

(平成28年5月取材)

## 周囲の厚い支援に感謝

就農を考えるようになってから、いくつもの候補地を訪問しましたが、自分には山形県が適していると思いました。

農作物の中で甘い果実は最も魅力があり、さくらんぼをはじめ果樹の生産が盛んな山形県内陸部を就農地と決めました。

とは言っても、東京出身の私が親戚もない山形の土地で農業を始めることには大きな不安がありました。

しかし、研修後、いざ農業を始めてみると、周囲の農家の方々が畑を見に来て助言してくださったり、出荷に協力してくださったりと、厚い支援をいただくことが出来ました。

前職は競争の世界でしたが、農業は地域の共同体で協力して取り組んでいる感じがします。私が今農業を出来ているのは、周囲の御支援があつてのこと。感謝の気持ちでいっぱいです。

栽培技術でも、販売面でも課題は多いですが、相談に乗っていただける環境にあることが心の支えになっています。

## 〈これから就農を目指す人へのアドバイス〉

農業は孤独なのかと思っていましたが、そうではありませんでした。地域の人との付き合いが大事です。

## 石川 夏海さん

【出身地】 東京都

【就農前の職業】 自営 (アパレル)

【就農年度】 平成26年度  
(H24年11月から独立就農者  
育成研修で2年間研修)

【経営概要】 さくらんぼ80a、桃30a



## 家族で共に働く幸せ

結婚を機に新庄市の夫の実家で生活するようになりましたが、途中、仕事の関係で夫が十数年間県外に赴き、別居生活を送りました。

その経験から、家族で営める農業に魅力を感じるようになり、新庄市若者園芸実践塾での研修を経て、平成23年度に就農しました。

当初はねぎ10aから始め、翌年60aに増やしました。その後、周年栽培となるような作物構成を試行錯誤して選定しました。現在は、ねぎのほかフキノトウ、たらの芽、アスパラガスなどを栽培しています。

ゼロからのスタートなので、土地を借りたり機械を買ったりと大変でしたが、「新規就農定着サポート事業」で営農費用の一部を支援していただいたお陰もあり、やっと農業所得で生活できそうなところまで来ました。

現在は、私、夫、義母の3人での農作業ですが、今年度中に自宅に加工所を設けてフキノトウを使ったお菓子づくりを始める予定もあり、再来年くらいには人を雇用することも考えています。

## 〈これから就農を目指す人へのアドバイス〉

農業は楽しいものです。失敗しても、前を向いて、希望をもって、そして楽しんで、頑張ってください。また、悩んだときに手を差し伸べてくれる農業の先輩・仲間を大切にしてください。

# ～就農までのステップ～

## 農業を始めるあなたの就農までのステップと支援内容

### ステップ1

自分の思いを伝え、  
情報収集をしてみよう！

支援センターでは：  
就農に向けた様々な相談に応じて  
います。研修制度などの各種支援  
情報や農業に関する情報なども提  
供しています。

### ステップ2

農業への  
理解を深めましょう！

支援センターでは：  
やまがた農業体験バスツアー、やま  
がた農業短期体験プログラムの事  
業を実施しています。(5.6ページ)

### ステップ3

農業に関する知識や技術を  
習得しましょう！

支援センターでは：  
独立就農者育成研修事業(給付金  
型)等を実施しています。(7.8ページ)

## 【研修に入る前にちょっとあなたの心構えをチェックしてみましょう。】

### チェック1 なぜ農業をやりたいのですか？

“田舎暮らしがしたい”、“自然とふれあいたい”、“会社勤めより楽そう”などの理由で農業を考えてはいませんか。思いつきや現実逃避であれば考え直してください。

### チェック2 こだわり、情熱はありますか？

計画を立て、目標に向かって努力する熱意と行動力、職人としてのこだわり気質も必要です。

### チェック3 農業のリスクや厳しさを理解していますか？

農業は、年収の保証はありません。経営が軌道に乗るまでも長い期間を要します。当面の生活費や運営経費を確保する必要があります。

### チェック4 家族からの理解と協力は得られますか？

新たに農業をすることは居住地など生活環境の変化が伴います。家族の理解と協力を得ることが必要です。

### チェック5 経営が軌道に乗るまで、耐えられる根気と資金がありますか？

安定した収入が得られるまでには長い期間が必要です。また、ジレンマやストレスも出やすくなりますが、これらに対応できる根気も必要となります。

### チェック6 地域の人と仲良くつきあえますか？

地域にとけ込み、地域の人達と深く、親しくつきあうことが必要です。

### ステップ4

目指す農業の経営計画を  
たてましょう！  
認定新規就農者になりましょう！

支援センターでは：  
青年等就農計画の作成支援や情報  
提供を行います。(9ページ)

### ステップ5

経営基盤を確保しましょう！

支援センターでは：  
研修生と関係機関を繋ぎ、スムーズ  
な就農への支援を行います。

### 新規就農

さあ 実践です。  
楽しく!ぶれずに、計画に  
沿ってやってみましょう！

支援センターでは：  
新規就農定着サポート事業を実施  
し、就農後の支援も行います。

(10ページ)

# やまがた農業体験バスツアー

**対象者** 農業に関心のある方、就農希望者、就農研修希望者等

**実施** 年2回

**内容** 農業体験(農作業)、先輩からの事例紹介、就農相談

**参加経費** 1,000円(傷害保険、昼食代等)

## 今日は「農業体験バスツアー」。楽しくいきましょう!!!

バスツアー  
の流れ

参加申込され、参加決定された方々は、  
やまがた農業支援センター(緑町会館)集合です。

\*ここまでの旅費は各自負担です。

貸し切りバスで移動します。

①



②



バスで移動

③



バスで移動

内容：①②農業体験  
③先輩農業者からの  
事例紹介

- ・就農ガイダンス
- ・就農相談
- ・昼食、意見交換会など

山形市内到着です。お疲れ様でした。

山形の農業はいかがでしたか？まだまだ、知らない世界が満載です。

山形でまた会いましょう！お待ちしております。

(解散場所は、集合場所と同じになります。)

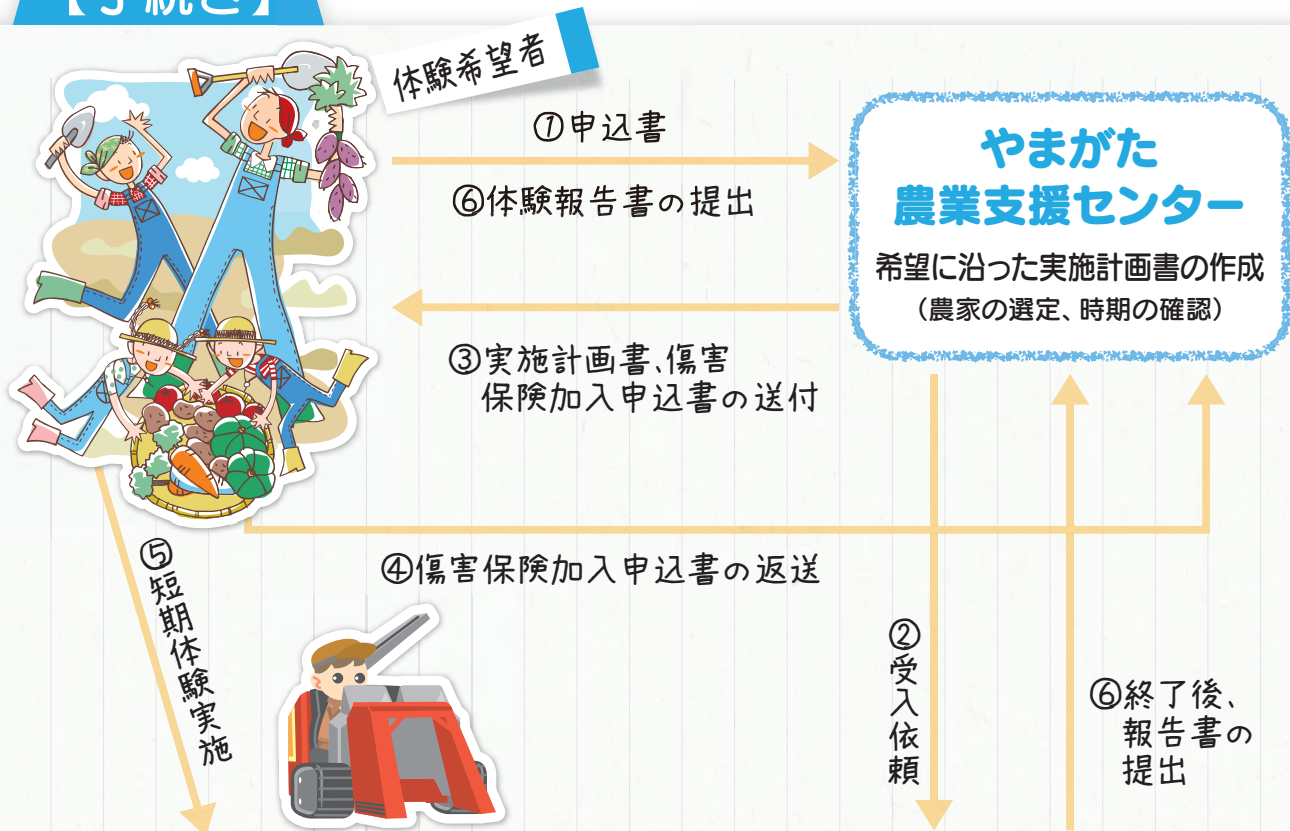


# やまがた農業短期体験プログラム

山形県内での就農を希望される方や農業に関心のある方を対象に、農業への理解をより深めていただくために実施する農作業や農家生活の体験です。希望する時期や地域、作物などにあったプランを立てて実施します。

- 研修先** 山形県内の農業法人、先進農家等
- 体験日数** 年間累計30日を限度として何度でもできます。
- 実施時期** 年間を通して実施しています。(4月~2月末) 土日利用など都合に合わせてできます。
- 参加経費** 無料 〔ただし、累計9日を超える場合は、1日当たり1,000円を負担金として研修先に支払っていただきます。また現地への往復の旅費と研修先に宿泊できない場合の宿泊費は自己負担になります。〕
- 保険等** 当センターで傷害保険に加入します。

## 【手続き】



## 受入農家

県内各地の先進農家です。  
専門分野のエキスパートです。  
担い手育成にも積極的な農家です。

# 先進農家研修

山形県内で独立就農を目指す方々を対象に、優れた知識・技術を持つ農業法人、先進農家での実践研修をサポートします。

実践研修を通し、就農に必要な栽培技術や経営のノウハウを習得します。また、基礎知識を学ぶ集合研修も実施します。

## 独立就農者育成研修事業(給付金型)

国の青年就農給付金(準備型)を受給しながら行う農業研修です。

研修は、やまがた農業支援センターが指定する受入農業経営者のもとで行います。

また、定期的に行われる集合研修では、農業の基礎知識の習得や仲間づくりに努めます。

- 研修期間 2年以内
- 研修開始時期 4月及び9月(予定)
- 対象者 就農予定時45歳未満の方
- 人数 20人程度
- 給付金 年間150万円

◎研修終了後、1年以内に就農しない場合や、給付期間の1.5倍または2年間のいずれか長い期間就農しない場合は、受給した給付金の全額を返還しなければなりません。

\*就農とは、独立・自営就農、または雇用就農をいいます。

\*1年間準備型の研修を受けた方は2年以上、2年間準備型の研修を受けた方は3年以上の就農が必要です。

## 独立就農者育成研修事業(雇用型)

研修生が受入農業者等に従業員として雇用され、賃金の支給を受けながらの実践研修です。

- 研修期間 2年以内
- 研修開始時期 原則4月
- 対象者 就農予定時45歳以上
- 人数 5名程度
- 雇用先への助成 年間150万円以内  
(60歳以上雇用の場合は年間75万円以内)

# 独立就農者育成（給付金型）研修の流れ

## 新規就農希望者

やまがた農業支援センター（以下センターと略します）では、農地や機械施設等の農業経営資産を持たない新規参入希望者を対象に農業研修をしています。

## 就農相談

センター窓口や「新・農業人フェア」等で相談に応じています。

## 農業短期体験

農業が本当に自分にあっているのか再確認する機会です。また、どんな作物をどこで栽培していくのかなどの就農のイメージをつくっていきます。

## 研修へ応募

就農相談や農業体験等を通して意志が固まった方は研修へ応募します。原則、2月と7月に募集します。ただし、2月で定員を満了した場合は7月の募集はありません。就農時45歳未満の方が対象になります。

## 受入農業経営者の決定

希望する作物や地域、農業体験の結果などを踏まえて実際に研修をする農家・団体等を決定します。受入農業経営者はセンターにあらかじめ登録されています。（H28年5月現在73件）

## 青年就農給付金（準備型）申請準備

給付金の受給申請に必要な書類を作成し給付主体の県に申請します。これの準備会も開催します。

## 研修

農場等での実践研修は受入農業経営者のもとで行います。また、定期的な集合研修も実施します。研修期間はおおむね2年をめどにしています。



# 「認定新規就農者」になりましょう

## ～あなたも「新・やまがた農業人!」～

農業を始める前に、自分のやりたい農業のイメージを具体的に持つことが大切です。いつ、どこで、どのような農業を始めるのかという農業経営ビジョンが明確になったら、今後の計画「青年等就農計画」をたてましょう。

その青年等就農計画を市町村から認定を受けて「認定新規就農者」になりましょう。

### 農業をやる 意志決定

#### 自分の考えを整理する

- いつから始めるのか
- どこで農業を始めるのか
- 資金調達はどうするのか
- 就農することに家族の協力は得られるのか
- どんな作物を作るのか
- 技術習得はどうするのか
- 住宅の確保はどうするのか

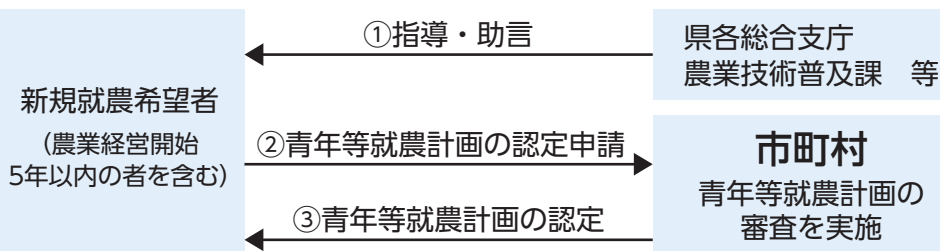
### 青年等 就農計画 の作成

#### 将来の構想、所得目標をまとめる

- 青年等就農計画の策定については、市町村、県各総合支庁農業技術普及課などに相談する。

### 青年等 就農計画書の 申請・認定

#### 認定までの流れ



### 晴れて 認定新規 就農者

#### 認定新規就農者のメリット

- 関係機関から濃密な指導が受けられる。
- 青年等就農資金の借受けができる。
- 青年就農給付金（経営開始型）等の助成が受けられる。

## ■新規就農定着サポート事業

農業経営基盤をもたず、新たに農業経営を開始した、又は開始を予定している認定新規就農者(法人を除く)に対し、新規就農のサポート事業を行っています。

### ◆ 営農費用の一部の助成

営農開始時の年齢が満45歳以上の認定新規就農者に対し、営農費用(育苗費、農薬費、肥料代等)の一部を助成します。

○助成金額 年額36万円と助成対象経費とのいずれか低い金額

○助成期間 最長5年間

### ◆ 定着支援アドバイザーの設置費用の助成

認定新規就農者に対し日常の営農活動及び経営等についてアドバイスを行う「定着支援アドバイザー」の設置経費の一部を助成します。

○助成対象経費 定着支援アドバイザー設置経費

○助成期間 2年間

○助成金額

[1年目] 年額10万円と活動時間1時間あたり2千円で計算した額のいずれか低い額

[2年目] 年額5万円と活動時間1時間あたり2千円で計算した額のいずれか低い額

## ■海外研修支援事業

県内において農業経営を開始又は開始を予定している青年等に対し、海外における技術・経営の研鑽を目的とした研修費用の助成を行っています。

○対象者 申請時に満30歳未満の者で、山形県知事の推薦を受けて、社団法人国際農業者交流協会により派遣される国外長期研修生(概ね1年以上)

○対象経費 国外研修に要する往復旅費、研修費等

○助成金額 25万円以内

## 青年等就農資金の内容

- 1.対象者 認定新規就農者
- 2.資金の使いみち 「施設・機械」、「果樹・家畜等」、「借地料などの一括支払い」、  
「その他経営費」
- 3.融資条件 償還期限：12年以内(うち据置期間5年以内) 融資限度額：3,700万円  
金利：無利子、実質無担保・無保証人
- 4.取扱金融機関 日本政策金融公庫(農協、銀行等による転貸しも可)



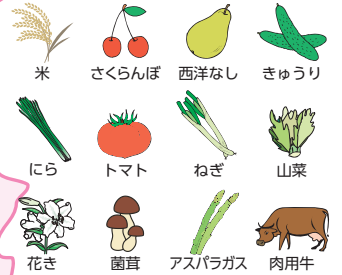
# やまがた農産物マップ

## 主な産地

### 庄内地方



### 最上地方



### 置賜地方



### 村山地方



## 山形県の各地方の気象特性

### 庄内地方

冬はふぶくが、沿岸部の降雪量は多くない。春から秋は温暖。

### 最上地方

冬は平地でも豪雪地。夏は気温が高いが夜は涼しく、霧の発生も多い。

### 村山地方

夏の気温は高いが昼夜の温度差が大きい。降水量、降雪量は少ないが、北部は豪雪地帯。

### 置賜地方

夏の気温は高いが昼夜の温度差が大きい。冬は豪雪地帯。

# やまがたの農業

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、全国第9位の93万haの県土面積は、その地勢や江戸時代の幕藩体制のなごりから、方言や食べ物など、文化も少しずつ異なり、南から置賜（おきたま）、村山（むらやま）、最上（もがみ）、庄内（しょうない）の4つの地域に大きく区分されています。

地域ごとに農業にも大きな特徴があります。ここに掲載した内容については平成25年3月に山形県から発表された「山形県農業経営基盤強化の促進に関する基本方針」に掲載されている「経営類型ごとの経営規模及び生産方式の指標」から10aあたりに換算されている指標と平成22年10月に山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課で作成された「最上地域の経営指標」等を基に参考資料として掲載いたしました。

なお、地域や作型、販売先等により数値に変化が出てきます。また、平成26年度からの経営所得安定対策等の見直しにより、雑収入等の数値が大幅に変わる品目もありますので、経営プランの作成にあたっては、このようなことを御承知の上、参考資料として使用くださいますようお願いいたします。

## 資料の見方

 <p>写真</p>	<h3>品 目 名</h3>	<div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; display: inline-block;">ポイント</div>																							
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #c0d0c0;">収 量</td> <td>〇〇〇～〇〇〇kg/10a</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0d0c0;">売 上</td> <td>〇〇〇～〇〇〇千円/10a</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0d0c0;">雑収入</td> <td>〇〇〇千円</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0d0c0;">経 費</td> <td>〇〇〇千円</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0d0c0;">所 得</td> <td>〇〇〇千円</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0d0c0;">労働時間</td> <td>〇〇〇時間</td> </tr> </table>	収 量	〇〇〇～〇〇〇kg/10a	売 上	〇〇〇～〇〇〇千円/10a	雑収入	〇〇〇千円	経 費	〇〇〇千円	所 得	〇〇〇千円	労働時間	〇〇〇時間	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> <tr><td>□□□□□□□□□□</td></tr> </table>	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□
収 量	〇〇〇～〇〇〇kg/10a																								
売 上	〇〇〇～〇〇〇千円/10a																								
雑収入	〇〇〇千円																								
経 費	〇〇〇千円																								
所 得	〇〇〇千円																								
労働時間	〇〇〇時間																								
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									
□□□□□□□□□□																									

**【技術力】** (易) ●●●●● (難)  
**【資本力】** (小) ●●●●● (大)  
**【労働力】** (小) ●●●●● (大)  
**【産地】** ○○地域

- 【技術力】** 技術の難易度を5段階で表示
- 【資本力】** 設備投資等イニシャルコスト（初期投資）の大きさを5段階で表示
- 【労働力】** 10aあたりに投下する労働時間の量を5段階で表示
- 【産地】** 県内の4地域で表示
- 【収量】** 目標収量から標準的収量まで幅を持たせ表示
- 【売上】** 収量に準じ、目標売上から標準売上まで幅を持たせ表示
- 【雑収入】** 経営所得安定対策等の交付金を考慮し表示  
※市町村により交付額が異なる場合があります。
- 【経費】** 材料費、農機具費等、販売費を合計した額を表示（労務費・雇用労賃は含まれない）
- 【所得】** 売上 + 雑収入 - 経費 により表示
- 【労働時間】** 目標収量に対応した労働時間を表示
- 【ポイント】** 当該品目の経営上の特徴を簡潔に表示
- 【品目名(最上)】** (最上)：最上地域経営指標を参考にしたことを表示。表示のないものは「山形県農業経営基盤強化の促進に関する基本方針」を参考にしたことを表示。



【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域

## 水 稲

収 量	570~600kg/10a
売 上	110~131千円/10a
雑収入	7千円/10a
経 費	93~96千円/10a
所 得	24~42千円/10a
労働時間	19時間

### ポイント

水稲には一般に栽培されている「ウルチ米」の他、「モチ米」がある。他の作物に比べ特別栽培や有機栽培も広く実施されている。典型的な土地利用型作物で、ほとんどの作業が機械化されており、単位面積あたりの労働時間は少ない。しかし、生産費に占める機械経費が大きいので、機械・施設の共同利用や営農の共同化、規模拡大などが求められる。



【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域

## 大 豆

収 量	150kg/10a
売 上	12千円/10a
雑収入	62千円/10a
経 費	59千円/10a
所 得	15千円/10a
労働時間	9.4時間

### ポイント

本県では主に水田転作地で栽培されている。大豆の作業はほとんどが機械化されており、共同組織で大面積栽培を行えば少ない労働時間で栽培することが可能である。

大豆は湿害に弱いことから水田転作地での作付けに際しては明渠や暗渠による排水対策を十分にとっておくとともに、連作障害を回避するための輪作体系も考慮する。



【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域

## そ ば (最上)

収 量	70~50kg/10a
売 上	18千円/10a
雑収入	20千円/10a
経 費	20千円/10a
所 得	18千円/10a
労働時間	5時間

### ポイント

本県のそばは主に水田転作地で栽培されている。そばは生育初期の湿害に極めて弱いため、明渠や暗渠による排水対策を十分にとっておくことが必須となる。7月下旬から8月上旬の播種、10月中下旬の収穫が一般的で排水対策以外の管理作業がほとんど不要なため、労働時間は極めて少ない。収穫は共同利用の汎用コンバインで行うのが一般的である。



## ホールクロープサイレージ (最上)

収 量	3,500~3,000kg/10a
売 上	25千円/10a
雑収入	80千円/10a
経 費	70千円/10a
所 得	35千円/10a
労働時間	22時間

### ポイント

飼料用専用品種を用いる場合は、品種特性に応じた栽培管理が必要となる。

技術的難度が上がるが、直播の導入によりさらなる省力化が可能である。

刈取りについては、成熟期より約10日早い黄熟期に行い、コントラクターなど組織的な対応が求められる。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域



## おうとう (露地雨よけ栽培)

### ポイント

本県は全国のおうとう生産量の74%を占める。主力品種「佐藤錦」の他、「紅さやか」、「紅秀峰」など、早生や晩生の新品種も普及しており、栽培も露地栽培から加温ハウス栽培まで多様である。

単位面積の所得も高いが、安定生産には受粉樹の確保、雨よけ施設の設置、適期の管理作業、防除等が必須であり、労働時間も多い。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	700kg/10a
売上	1,664千円/10a
雑収入	-
経費	1,017千円/10a
所得	647千円/10a
労働時間	572時間



## 西洋なし

### ポイント

本県は全国の西洋なし生産量の58%を占めている。主力品種「ラ・フランス」の他、新品種「メロウリッチ」などの普及も進められている。

風害による落下防止のための棚栽培なども始まっているが、冬期間の雪害や野ウサギなどの食害防止、胴枯病防止対策などの適切な管理作業の実施とともに、地域にあった品種導入も大切である。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	3,500kg/10a
売上	1,165千円/10a
雑収入	-
経費	932千円/10a
所得	233千円/10a
労働時間	276時間



## りんご

### ポイント

本県は全国5位のりんご産地である。主力品種は「ふじ」であるが、近年、本県オリジナル品種「ファーストレディ」や「秋陽」が注目されている。りんごは古くから栽培されてきたため、老木園も多く、適正な品種への改植も進められている。導入に際しては、適正な品種構成と適正な摘蕾、摘果等の管理作業、適期防除等が重要である。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	3,200kg/10a
売上	859千円/10a
雑収入	-
経費	580千円/10a
所得	279千円/10a
労働時間	294.6時間



## もも

### ポイント

本県は全国6位のもも生産県である。主要産地は山梨県や福島県など、本県より南に位置する県であり、本県では遅場産地(出荷時期が他県より遅い)としての特徴を生かす生産を進めている。ももは品種が多く、天候により品質が大きく左右されやすいことから、導入に際しては適正な品種選定と適期防除、日焼け防止などの管理作業が重要である。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】村山地域

収量	3,200kg/10a
売上	1,121千円/10a
雑収入	-
経費	748千円/10a
所得	373千円/10a
労働時間	300.7時間



## ぶどう (無加温ハウス)

### ポイント

本県で昔から栽培されてきたぶどうの品種「デラウェア」。露地栽培の出荷時期は8月中旬からであるが、加温ハウスで栽培することにより、7月上旬からの長期出荷が可能となった。また、雨よけにもなるため、防除回数を大幅に減らすことができる。施設設置の経費やランニングコストも考慮して導入することが大切である。

【技術力】(易) ●●●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●●●● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	1,600kg/10a
売上	846千円/10a
雑収入	—
経費	772千円/10a
所得	74千円/10a
労働時間	295時間



## ぶどう (大粒種)

### ポイント

これまでぶどうは「デラウェア」が多く栽培されてきたが、需要が多く販売単価も高い「大粒種」の栽培が増えている。特に、皮ごと食べられ、食味の優れる「シャインマスカット」は消費者の人気も高く、本県の栽培面積が増加しており、県や農業団体が一体となって販売促進に努めている。

【技術力】(易) ●●●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●●●● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	1,500kg/10a
売上	1,500千円/10a
雑収入	—
経費	738千円/10a
所得	762千円/10a
労働時間	331時間



## トマト (夏秋雨よけ栽培)

### ポイント

施設を必要とすることから設備投資額も大きいですが、水稻の育苗ハウスの活用などで低減可能である。

草勢を維持するための高い技術力が必要で、収量・品質に差が出やすい。

収穫調整作業に多くの労力を要するので、農繁期の労働力・共選施設の有無により経営可能な規模が異なる。

【技術力】(易) ●●●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●●●● (大)

【産地】県内全域

収量	10,000kg/10a
売上	3,290千円/10a
雑収入	—
経費	2,307千円/10a
所得	983千円/10a
労働時間	698時間



## ミニトマト (夏秋雨よけ栽培) (最上)

### ポイント

水稻育苗ハウスの活用などで取組みは比較的容易だが、技術力の差が収量に影響しやすい。

収穫・調整作業に多くの労力を要するので、農繁期の労働力の確保が可能かや、共選施設の有無により経営可能な規模が異なる。

【技術力】(易) ●●●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●●●● (大)

【産地】県内全域

収量	7,000~5,000kg/10a
売上	3,500千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	1,959千円/10a
所得	1,551千円/10a
労働時間	2,176時間



## きゅうり (露地栽培)

### ポイント

露地栽培の場合は遅霜の心配がなくなる5月中～下旬に定植され、9月まで収穫する。

収益性は高いが多くの労働時間を必要とする品目であり、長期間の収穫に応じた管理が要求される。

安定した収穫には、土壌環境や苗質、病害虫の防除をこまめにする等の条件を揃えることが必要である。

【技術力】(易) ●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●● (大)

【産地】県内全域

収量	11,000～9,000kg/10a
売上	2,420千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	1,018千円/10a
所得	1,412千円/10a
労働時間	1,192時間



## 枝豆 (露地栽培)

### ポイント

枝豆は、熟期の異なる品種を組み合わせることによって、長期間の出荷が可能となる。また、収穫適期が短いので、時期を逃さないように収穫することが大切である。

枝豆は、欠株や鳥害の予防から移植栽培が望ましい。また、多肥栽培は、過繁茂となり、着莢不良が発生するので注意する。

【技術力】(易) ●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●● (大)

【産地】県内全域

収量	500kg/10a
売上	300千円/10a
雑収入	—
経費	173千円/10a
所得	127千円/10a
労働時間	61時間



## さといも (露地栽培) (最上)

### ポイント

最上管内では、出荷は少ないが、8月のお盆や祭りといった需要期に合わせて、早掘りする作型も導入されている。また、定植や掘り取り等機械の導入によって規模拡大を図る事例がみられる。

さといもは、乾燥に弱く収量、品質に大きく影響するため、土壌水分を適湿に保つことが必要である。

【技術力】(易) ●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●● (大)

【産地】県内全域

収量	2,000～1,500kg/10a
売上	572千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	293千円/10a
所得	289千円/10a
労働時間	165時間



## おかひじき (ハウス雨よけ栽培・年4回取り)

### ポイント

使用できる農薬も少ないため、病害の予防には雨よけ栽培が必要である。

播種から収穫までは約35～45日間必要で、ハウスを複数棟利用することによって、連続した出荷が可能である。ただし、8月以降の播種では、夜間の照明設備が必要である。

【技術力】(易) ●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	3,000kg/10a
売上	2,172千円/10a
雑収入	5千円/10a
経費	1,587千円/10a
所得	585千円/10a
労働時間	423時間





## にら (露地栽培)

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】最上地域

収量	3,500kg/10a
売上	1,050千円/10a
雑収入	-
経費	971千円/10a
所得	79千円/10a
労働時間	522.3時間

### ポイント

最上地域では、野菜の中で最も導入されている。比較的  
低資本・軽作業であり、高齢者にも取り組みやすい品目である。

ほ場は、収穫時期ごとに分け、収穫回数は年3回以内とし3年収穫で改植する。

露地栽培で、5月上旬から10月中旬の長期間出荷が可能である。



## アスパラガス (露地栽培)

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】最上、置賜地域

収量	1,000kg/10a
売上	870千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	609千円/10a
所得	261千円/10a
労働時間	410時間

### ポイント

最上地域で急速に産地化が進んでいる品目である。

アーチパイプを利用した長期立茎栽培が主で、収穫期間は5月から9月である。

一度植えると10年程度は栽培するため、排水対策等、定植時にほ場条件を整えることが重要である。

また、経営規模を拡大するためには、選果施設と雇用が必要になる。



## ねぎ (秋冬取り)

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】庄内、最上地域

収量	3,000kg/10a
売上	690千円/10a
雑収入	-
経費	548千円/10a
所得	142千円/10a
労働時間	285.9時間

### ポイント

水田でも排水対策を行えば、転作品目として栽培が可能である。土を寄せて白根部分を作るとい、植物に負担をかける栽培体系のため、栽培技術の差が出やすい。

機械化の進んだ品目であり、1戸平均約40aで栽培されている。労働時間の半分以上は、調整から出荷で占められている。



## すいか (つる引き)

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	5,000kg/10a
売上	926千円/10a
雑収入	26千円/10a
経費	618千円/10a
所得	308千円/10a
労働時間	227時間

### ポイント

本県産すいかの産出額は全国第3位、本県産野菜の中では最大の産出額である。北村山を中心に産地が形成され、大型選果施設でセンサーによる糖度や空洞チェックなどが行われている。近年は消費者志向に合わせた大玉すいかのカット販売や小玉すいか栽培なども増加している。



## ほうれん草

(冬期無加温ハウス利用)

### ポイント

ほうれん草は栄養価の高い有色野菜として周年需要のある野菜である。ハウス栽培が主流であり、水稻の育苗ハウスや果菜類栽培ハウスの活用による施設経費低減が可能である。草勢を維持する高い技術力が必要で、収量・品質に差が出やすい。収穫調整作業に多くの労力を要するので、他の作物の作業と競合しない栽培体系が必要となる。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】 県内全域

収量	1,800kg/10a
売上	630千円/10a
雑収入	-
経費	383千円/10a
所得	247千円/10a
労働時間	419時間



## パプリカ

(ハウス雨よけ栽培)(最上)

### ポイント

庄内地域の生産量が多い。最上地域では、戸沢村で導入が進んでいる。栽培は、ハウス栽培で、4月下旬から定植され、12月上旬までの長期間となる。

パプリカは開花から出荷まで40日~60日程度要するため、病害虫の防除や草勢管理には特に注意が必要である。また青枯病の予防には接木苗(台パワー)の導入が有効である。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】 庄内、最上地域

収量	5,000~4,000kg/10a
売上	2,250千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	873千円/10a
所得	1,387千円/10a
労働時間	964時間



## ピーマン

(露地栽培)(最上)

### ポイント

最上地域では、露地栽培が主体である。この場合、施設、装備等の投資額は少なくなる。

水田転作地の栽培が多いが、排水性を良くするために高畦とする。また、乾燥にも弱いので、かん水施設の整備は必要である。栽培は比較的容易であるが、病害虫防除は適時実施する必要がある。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】 最上地域

収量	5,000~3,000kg/10a
売上	1,500千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	625千円/10a
所得	885千円/10a
労働時間	834時間



## ししとう

(ハウス雨よけ栽培)(最上)

### ポイント

最上における栽培は、県内一位の産地となっている。

ししとうは、開花から収穫まで12日から18日程度で、収穫に多くの労力を要するので、労力にあった栽培規模とする。

栽培する場合は、排水性が良く、保水性の優れるほ場とする。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】 最上地域

収量	3,500~3,000kg/10a
売上	2,800千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	1,010千円/10a
所得	1,800千円/10a
労働時間	2,690時間



## たらの芽 (ハウス促成栽培)

### ポイント

たらの芽は最上地域を代表する山菜となっている。

たらの芽を導入するに当たっては、販売先によって品種の対応に違いがあるため、地域で栽培されている品種とする。

たらのきは、排水がよく、土壌が肥沃な場所が適する。また、初期に雑草対策を怠ると生育が不良となるので注意する。

【技術力】(易) ●●●●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●●●●● (大)

【産地】最上、置賜地域

収量	80kg/10a
売上	360千円/10a
雑収入	-
経費	304千円/10a
所得	56千円/10a
労働時間	151.1時間



## トルコぎきょう (夏出し無加温栽培)

### ポイント

夏季冷涼気候を好むので風通しの良い場所を選ぶ。

生育初期は水分を多く必要とするので、かん水設備を整えること、排水の良いほ場整備が必要となる。根張りが重要なので、有機質施用による土作りをしっかりと行う。

育苗期間は1.5~2ヶ月と長く、定植から収穫までは3~4ヶ月ほどかかる。

【技術力】(易) ●●●●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●●●●● (大)

【産地】庄内、村山、最上地域

収量	24,000本/10a
売上	2,400千円/10a
雑収入	-
経費	2,132千円/10a
所得	268千円/10a
労働時間	628時間



## りんどう (秋出し栽培)(最上)

### ポイント

酸性土壌を好み、連作を嫌うため、水田転作地に向く作物であるが、根は湿害に弱いので、排水対策をしっかりと行う。

春定植の場合は、定植年は株養成し、次の年から収穫となり、約5年間収穫ができる。

品種の組み合わせにより、7月中旬から11月までの出荷が可能。

【技術力】(易) ●●●●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●●●●● (大)

【産地】最上、村山地域

収量	35,000~30,000本/10a
売上	1,575千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	691千円/10a
所得	894千円/10a
労働時間	434時間



## アルストロメリア

### ポイント

種苗は特許があり、5年ごとの更新が必要で、種苗コストが高い。夏場の高温高湿を嫌うため、施設では換気とともに土中冷却装置などによる地温の保持が必要で、施設経費とともに高度な技術力が要求される。本県産は寒暖の差による色づきの良さが特徴で、周年にわたって出荷されている。

【技術力】(易) ●●●●●●●● (難)

【資本力】(小) ●●●●●●●● (大)

【労働力】(小) ●●●●●●●● (大)

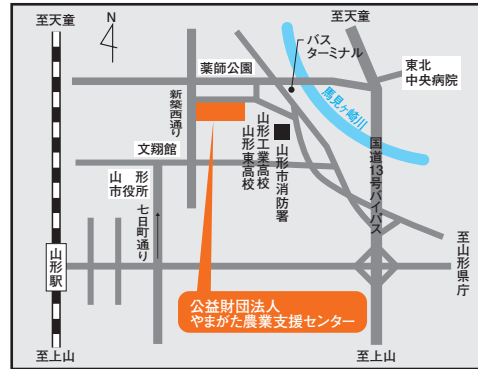
【産地】置賜、庄内地域

収量	120,000本/10a
売上	7,687千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	6,382千円/10a
所得	1,305千円/10a
労働時間	1,497時間

## 新規就農についての相談・問い合わせ

### ■ 公益財団法人やまがた農業支援センター

(山形県新規就農相談センター)  
(山形県青年農業者等育成センター)  
〒990-0041 山形市緑町一丁目9-30 緑町会館6階  
TEL (023) 641-1117 FAX (023) 624-6019  
URL : <http://www.yamagata-nogyo-sc.or.jp/>  
E-mail : [info-shinkishuno@yamagata-nogyo-sc.or.jp](mailto:info-shinkishuno@yamagata-nogyo-sc.or.jp)



### ■ 山形県農林水産部農政企画課 農業経営・担い手支援室農業経営支援担当

〒990-8570 山形市松波二丁目8-1  
TEL (023) 630-2384 FAX (023) 630-2558

### ■ 村山総合支庁農業振興課

〒990-2492 山形市鉄砲町二丁目19-68  
TEL (023) 621-8397 FAX (023) 622-3071

### ■ 置賜総合支庁農業振興課

〒992-0012 米沢市金池7丁目1-50  
TEL (0238) 26-6050 FAX (0238) 21-6941

### ■ 最上総合支庁農業振興課

〒996-0002 新庄市金沢字大道上2034  
TEL (0233) 29-1319 FAX (0233) 22-0662

### ■ 庄内総合支庁農業振興課

〒997-1392 三川町大字横山字袖東19-1  
TEL (0235) 66-5724 FAX (0235) 66-2535

## 雇用就農などの相談窓口

### ■ 一般社団法人山形県農業会議

〒990-0041 山形市緑町一丁目9-30 緑町会館6階  
TEL (023) 622-8716 FAX (023) 634-8640  
E-mail : [kaigi@yca.or.jp](mailto:kaigi@yca.or.jp) URL : <http://www.yca.or.jp>

## 農業技術・経営指導などの相談窓口

### ■ 村山総合支庁農業技術普及課

〒990-2492 山形市鉄砲町二丁目19-68  
TEL (023) 621-8277 FAX (023) 621-8275

### ■ 置賜総合支庁農業技術普及課

〒999-2174 高島町大字福沢字鎌塚台160  
TEL (0238) 57-3411 FAX (0238) 57-3414

### ■ 村山総合支庁西村山農業技術普及課

〒991-8501 寒河江市大字西根字石川355  
TEL (0237) 86-8214 FAX (0237) 86-8247

### ■ 置賜総合支庁西置賜農業技術普及課

〒993-8501 長井市高野町二丁目3-1  
TEL (0238) 88-8212 FAX (0238) 83-1119

### ■ 村山総合支庁北村山農業技術普及課

〒995-0024 村山市楯岡笛田四丁目5-1  
TEL (0237) 47-8637 FAX (0237) 55-3239

### ■ 庄内総合支庁農業技術普及課

〒999-7601 鶴岡市藤島字山ノ前51  
TEL (0235) 64-2103 FAX (0235) 64-2104

### ■ 最上総合支庁農業技術普及課

〒996-0002 新庄市金沢字大道上2034  
TEL (0233) 29-1326 FAX (0233) 22-2026

### ■ 庄内総合支庁酒田農業技術普及課

〒998-0857 酒田市若浜町1-40  
TEL (0234) 22-6521 FAX (0234) 22-6522

## 知識・技術の習得

### ■ 山形県立農林大学校

〒996-0052 新庄市大字角沢1366  
TEL (0233) 22-8794 FAX (0233) 23-7537

## 東京での相談窓口

### ■ 山形県Uターン情報センター

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3  
都道府県会館13F 山形県東京事務所内  
TEL (03) 5212-8996 FAX (03) 5212-9028

## 全国的就農相談窓口

### ■ 全国新規就農相談センター

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8  
中央労働基準協会ビル2F 全国農業会議所内  
TEL (03) 6910-1126(代) FAX (03) 3261-5131